

キャスト

キキ・キキの声(絵)かび絵 ……6年

酸素ちゃん・子じもーの声(かび絵) ……3年

日光ちゃん・子じもーの声(かび絵) ……3年

水ちゃん・子じもーの声(かび絵) ……3年

武士・かび絵(声)キキ ……6年

エジソン・かび絵(声)子じ ……4年

ガンダム・かび絵(声)子じ ……3年

恐竜・かび絵(声)子じ ……4年

宇宙人・かび絵(声)田 ……3年

犬・かび絵(声)は ……2年

虫・かび絵(声)は ……むかえの宇宙人 ……2年

プロローグの前に 『お祭りのかえり』

ぶたはいはまへがしまつたまぢ。

お祭りの音(ハ)そ祭り(ハ)が聞(ハ)えていへん。

大役・中役の2人が法被を着て出てきて、「ハッハッ踊りながら通りすがり」を踊りながら通りすがり。キキと友だち3人が楽しそうに出てくる(幕の前に)。友だちは浴衣姿。

子ども1 「お祭り、たのしかったな〜。」

子ども2 「ね〜。」

子ども3 「みんな、なに買ったの?」

キキ 「わたしリンゴあめ〜」

子ども1 「わたしわたあめ〜」

子ども2 「わたしは肉〜」

3人 「おお〜。」

子ども3 「ねえねえ、ちょっと学校の前庭で遊んで行かない?」

3人 「さんせ〜☆」

4人、楽しそうにハッハッ。

プロローグ かげ絵『学校の大きな木のぼりの木』

チャイムの音がきこえ、まへがあ〜。夏の虫の音。

ステージの上はかげ絵スクリーン。

スクリーンに、大きな木がうつろ。その周りに、子どもたちのかげ(4人)。

子ども1 「なにこしてあそぶな〜」

子ども2 「まだ、ハッハッの木、ハッハッ〜」

3人 「う〜ね〜」

キキ 「う〜あわたくしはひまわり〜」

子ども3 「う〜あわたくしはりんご〜」

子ども1 「わたしもあそぶの〜」

子ども2 「わたしも〜」

子ども3 「わたしも〜」

キキ 「う〜ハッハッ〜」

子ども1 「う〜あそぶな〜」

キキ「あれ、なにこれ？樹液じゅえきがたまっているーみてみてー」
子ども2「うわ。みどり色みどりいろのフロロだー」

子ども3「きたないー」

キキ「おいしそうじゃん。」

3人「えー」

子ども1「うそでしょー」

子ども2「へんだよー」

子ども3「ありえないー」

キキ「のんじゃおつかない。」

3人「えー」

子ども1「やめなよー」

子ども2「どいにかもよー」

子ども3「死ぬよー」

キキ「のんじゃお」

「ジウルジウル…ゴクソープハー☆」と、大きく聞かせ、

かげ絵スクリーンに、光がいつぱいになる(光のまじりをしす)。

キキ「うわーっ」

3人「キーキちゃーんー」

スクリーンに、タイトル文字(かげ絵)。

みんな「木が危機でキーキーー！(タイトル)ール(わー！)」

へびへんへん。

『シーン』木の中』

胎内のような不思議な音の後、ピチヨン、ピチヨン…と水のしたたる音。

ステージの上があかるくなる。木の中(不思議な空間。水や養分の通り道?)。

キキ倒れているが、水の音(流れ)。

キキ「あれっ！こぼ…びっ！みんなは？」

酸素「ぶしんしゃ発見ー」

日光「つかまえるー！ー」

水「了ー解!」
キキ「わー!」

酸素・日光・水の3人が出てきて、キキをロープでグルグルまき「。

キキ「だれ?」

酸素「あなたこそだれよ?」

キキ「わたしはキキ。布部小の6年生。」

日光「じゃあ、入ってきちゃったのね。」

水「あらまあ。」

キキ「あなたたちはいったい何者なの?」

酸素「わ・た・し・は・酸・素・ち・ゃ・ん・で・す!」

日光「日光よー」

水「水ですー。」

酸素「この木はー」

日光「私たちとともじー」

水「生きてまーすー」

3人「ひとよんでーい・ち・ョウ・ウ・の・し・ま・いー」

キキポーズ(シャキーン)

キキ「え?なに?どうして?」

酸素「あなた、この木の樹液のんじやったでしょ?」

日光「あれのむこ、なぜかこの木に入ってきたやつなのよ。」

水「しまりこはー、校庭のーい・ち・ョウ・ウ・の木の中じーとー」

キキ「こそー!」

酸素「でもあんなグロテスクな樹液のんだ人、久しぶりよね。」

日光「この前がたしか…」

水「五十年前よー。」

キキ「この木こそんな長生きだったのー?」

酸素「この木はずっと昔からじーとじーといて、布部を守ってきたのよ。」

日光「さあ、まだ話はおわりの。」のち、あの部屋「じーとじーといておきまじー」

キキ「ちよ、ちよとく待ってー!私たまたま来ちゃっただけだし、別に悪いことじゃないからー」

水「うーん、じーとじーとー」

3人、ちよとくあつまって、そつだんすぬ。

酸素「やつは、まだ信じられないかな。」

日光「私たちはこの木を守るのが第一のしめ。」

エジソン「やんだかむ〜」

武士「新入りでいじめる。名前はキキじゃ。」

エジソン「わたしはエジソン。天才だ。」

キキ「ななむエジソンがじじい〜?」

エジソン「ああ。むかし、電球を発明してガッポリもつけたから、フリリと日本旅行にきたと
いふ、布部でオチオチいじめるし、おなかが入って、いついついの木の樹液をへ
ロ〜やぞ。」

武士「ごうじ、まがぬはひごんばいけん。」

そのとき、おへんから「ガシヤン、ガシヤン」と音がする。

キキ「もじかじい、ほかにもごんごん〜」

武士「うむ。あそこを見ればいじめる。ちちつと無口じゃが、なかなかすじのとあったか〜い
いじや。お〜い〜」

ガンダム登場。(ガンダムの登場曲が流れる)

ガンダム「やんだか〜」

武士「新入りでいじめる。名前はキキじゃ。」

ガンダム「おれはガンダム。ジオン軍のザクをおつて、いままで来たんだが、おなかが入って
い〜くろ〜む。」

キキ「本物のガンダムだ〜」

武士「か〜いごうもあつた〜」

そのとき、おへんから「ピポポポ…」「じ音がする。」

キキ「もじかじい…〜」

武士「うむ。あそこを見ればいじめる。いじめるか、かわりものでな。何をきかしているかわかん
な。が、い〜むめなごうじ。お〜い〜」

宇宙人登場。(宇宙人のテーマが流れる)

宇宙人「ピポポポ…ピポポ…」

武士「新入りでいじめる。名前はキキじゃ。」

宇宙人「ワタシハ、ウチ〜ウジンター。ピポポ…」

キキ「え〜い〜」

そのとき、おへんから「フリリのテーマが流れてい〜い。

キキ 「もしかし…。」

武士 「うむ。あ、その目を開けたいの。一番のふるかぶらじや。おーい。」

恐竜登場。

恐竜 「ギャオーー！」

キキ 「わー恐竜だー！」

恐竜 「ほくはティナノザウルスっていうんだギャー。せつめつをのがれて、じつそり生き残つてただけだ、ここにうちやっただんだギャー。」

キキ 「こわくないの？」

みんな 「うん。」

キキ 「じつぞよろしくおねがします。」

5人 「よろしくおねがします。」

武士 「あ、そのじゃーもう一匹いたわい、ケル。」

とっせん、大きなひめい(酸素・日光水)がびびる。

みんなにきんちようがはいる。

キキ 「なにになに？なにがおじたの？」

武士 「わからぬ。こんなじつはじめてじゃー！」

エジソン 「あちからきこえたぞー！」

宇宙人 「この部屋のおへの方だ、ポー！」

ガンダム 「サクか？」

恐竜 「どこかへ、こっぴみるギャー！」

6人 「おー！」

全員、走って出ていって、犬が出てきて、後を追ってかけ抜けていって。

武士たち、ぶたいそでから、順番に顔を出す。

武士 「この木にいったい何が起つたのか？」

キキ 「はたしてわたしは、は、ぶじにこの世界にかなえることができたのか？」

ガンダム 「このじつは、は、…」

みんな 「このあつぱー！」

えんえんえん。

《映像》 赤部小学校CM(約1分半)

間。

ガンダム「いいぜ。おれが残るー」

みんな「えっ」

ガンダム「だしておねは…みんなのために正義を守る。ガンダムだぜー」

武士「おすかローロー！(笑)ねー」

キキ「それ！まだか！(泣)さー」

ガンダム「ほら、もうお時にたなねー。さよならー」

みんな「ありがとガンダムー」

宇宙人「じゃあ、ミンナ。ほくのまわりであしきしへ…」

宇宙人のまわりには、帰るメンバーがあつまる。

ガンダムと、酸素・日光・水は、ちよつとほなわしてさる。

音楽(あずさの音)前奏(流れはじめ)。

酸素「ありがとさーあなたたちのことは、ぜったい忘れないうわー」

日光「これから、おすか！(泣)さよと、在野のいよを、見せしめてさへわわわ」

水「だからこの木を、大切にしようわー」。

キキ「うん、私たち、この木のよ、大好きー」

音楽盛り上がりがる。みんなへお別れ。

歌 《おひめ(おひめ)》

あずさの音 〇〇〇〇〇〇〇〇

〇〇〇〇〇〇 〇〇〇〇〇〇

〇〇〇〇〇〇 〇〇〇〇〇〇

〇〇〇〇〇〇 〇〇〇〇〇〇

〇〇〇〇〇〇 〇〇〇〇〇〇

あずさの音 〇〇〇〇〇〇

〇〇〇〇〇〇 〇〇〇〇〇〇

歌の途中(おひめ)の時ちよつと(おひめ)から中割り幕が開へ。

迎えに来た宇宙人(虫役の子)りき先生・今村先生(おひめ)が、光の中で手をさしあわせてさる。

キキたち、歌(おひめ)の光の中へ進んでさる。

おひめ(おひめ)。

おひめ(おひめ)。

エピソード かげ絵『ふたたび、学校の大きな木のぼりの木』

夏の虫の音。ステージの上に、かげ絵スクリーン。

はじめと同じ、大きな木がうつる。そのまわりに、子どもたちのかげ(4人)。

子ども1 「キキちゃん、大丈夫？」

キキ 「あれ…ここは…校庭？」

子ども2 「きゅっ！いなくなっちゃったもんだもんだ。」

子ども3 「心配したよ。」

キキ 「うん…。」

子ども1 「ほんとに大丈夫なの？」

キキ 「…ねえみんな知ってる？この木にはね、実はガンダムがすんでるんだよ。」

子ども2 「えっ？何言ってるの？」

子ども3 「キキちゃん、頭でもうたたんじゃない？」

キキ 「ちよつと、木に耳をあててみて。」

3人 「えっ。」

キキ 「ほり…。聞こえてきた…。」

音楽『ガンダムのテーマ』が、聞こえてくる。

ガンダム(ガンダム役の子)の影が木の中にうつる。

そして、まへがうつる。

カーテンコール

おしまい